

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名（ 桑名西高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>○自らの意志で学び、より高みに向かおうと挑戦する意欲にあふれた学校</p> <p>○協働と交流を通して、たくましく生きる力と他者への思いやりが育つ学校</p>
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>○自分の興味関心や適性、働くことの意義や社会貢献について深く考え、自分の進路を主体的に決めることができる。</p> <p>○学習活動や特別活動、部活動に自主的、協同的に取り組み、社会で必要とされる力とそれを支える確かな学力、豊かな人間性を身に着ける努力ができる。</p> <p>○基本的な生活習慣等、人としてのあり方生き方のすべてにつながる土台となる部分が定着し、他者への配慮ができる。</p>
	ありたい 教職員像	<p>○目指す学校像の実現に向け、教職員一人ひとりが「誰のため、何のため」を常に意識して自己研鑽に努めるとともに、協力して取り組んでいる。</p> <p>○すべての教育活動で、生徒が知る喜びや学ぶ楽しさを実感でき、思考力・判断力・表現力をはぐくみ、主体的に取り組むことができるように工夫改善に努めている。</p> <p>○教職員が互いに切磋琢磨し、生徒と共に成長する活気にあふれた職場を目指している。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本から様々な進路希望に対応した内容まで、興味関心を喚起する授業。 ・大学進学を中心に自分の力を伸ばし進路希望が実現できるきめ細かい指導・支援。 ・安心して豊かな学校生活を送るための教育環境と、学校行事、生徒会活動、部活動の充実。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力伸長と進路希望実現に向けた学習指導・進路指導・生徒指導の充実。 ・学校行事や部活動等をとおした豊かな人間性の育成。安全・安心な教育環境。 <p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力、体力、コミュニケーション力を備え、将来地域社会で主体的に活躍できる人材育成。 ・授業や学校行事の公開、部活動の交流、地域行事への参画をとおした開かれた学校。 	
	<p style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p><家庭></p> <p>学力伸長および進路希望実現や、豊かな人間性の育成に向けての教職員による支援と十分な情報提供。</p> <p><中学校></p> <p>本校の特色や生徒の学校生活の様子、進路状況などの情報提供。</p> <p><地域></p> <p>学校行事等の公開。地域活性化のために地域行事や防災活動等への生徒の参画。</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <p><家庭></p> <p>学校教育への理解と協力。基本的な生活習慣の確立や進路希望実現に向けた支援。</p> <p><中学校></p> <p>基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着に向けた相互協力。情報交換と協力・支援。</p> <p><地域></p> <p>学校の教育活動や生徒が生き方や働き方を考えるための協力・支援。</p>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<p><職員の労働時間の縮減></p> <ul style="list-style-type: none"> ○定時退校日については、学校の方針がすべての教員に浸透する工夫が必要。また、別途個人で定時に退校する日を宣言するなど、さらなる取り組みの検討も必要。 ○部活動については、休養日を週1日から週2日に増やし活動にメリハリをつけてはどうか。また、短時間に集中し効果や競技成績をあげている例もある。慣習に囚われない、新しい指導方法を取り入れてはどうか。 <p><防災教育></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本校の防災活動は完成に近づきつつある。今後は地域の方の参加を増やしていけるように取り組んでほしい。また、今後も継続して被災地への学校防災ボランティアに参加してほしい。(参加生徒の情報発信は大きく、他の生徒の刺激にもなる) <p><安全教育></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自転車通学時の携帯電話・スマートフォンの利用禁止の徹底など、生徒の「いのちを守る」取組の一環として、交通安全の遵守に取り組んでいただきたい。 <p><情報発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページは中学生や保護者が見やすいようにさらに工夫してはどうか。 ○新聞等に積極的に情報発信し、桑名西高校の活性化につなげてほしい。 				
<p>(4) 現状と課題</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">教育活動</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○自ら挑戦する心を持ち、自主的に自己の生きる力を伸ばすことができる生徒の育成が求められている。 ○難関大学等への進学志向が高まっており、多様な入試機会を積極的に活用し自らの進路を切り拓こうと挑戦する生徒が増えている。 ○国公立大学をはじめ、第一志望合格に向けて粘り強く最後まで学習する指導を強化しており、指導方法や進路指導体制のさらなる改善が必要である。 </td> </tr> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center; vertical-align: middle;">学校運営等</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○社会で求められる力の育成のため、教科横断的で探究的な学習を着実に実施できる体制を構築する必要がある。 ○学年や分掌、教科を越えた学校全体的な取り組みを行うにあたり、情報共有や意思統一を円滑に図るため、ICT機器の活用やシステムの改善など一層の工夫が必要である。 ○休暇取得の促進や定時退校日の遵守など、職員のワークライフバランスの改善に向けた取り組みが必要である。 </td> </tr> </table>	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら挑戦する心を持ち、自主的に自己の生きる力を伸ばすことができる生徒の育成が求められている。 ○難関大学等への進学志向が高まっており、多様な入試機会を積極的に活用し自らの進路を切り拓こうと挑戦する生徒が増えている。 ○国公立大学をはじめ、第一志望合格に向けて粘り強く最後まで学習する指導を強化しており、指導方法や進路指導体制のさらなる改善が必要である。 	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○社会で求められる力の育成のため、教科横断的で探究的な学習を着実に実施できる体制を構築する必要がある。 ○学年や分掌、教科を越えた学校全体的な取り組みを行うにあたり、情報共有や意思統一を円滑に図るため、ICT機器の活用やシステムの改善など一層の工夫が必要である。 ○休暇取得の促進や定時退校日の遵守など、職員のワークライフバランスの改善に向けた取り組みが必要である。
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら挑戦する心を持ち、自主的に自己の生きる力を伸ばすことができる生徒の育成が求められている。 ○難関大学等への進学志向が高まっており、多様な入試機会を積極的に活用し自らの進路を切り拓こうと挑戦する生徒が増えている。 ○国公立大学をはじめ、第一志望合格に向けて粘り強く最後まで学習する指導を強化しており、指導方法や進路指導体制のさらなる改善が必要である。 				
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○社会で求められる力の育成のため、教科横断的で探究的な学習を着実に実施できる体制を構築する必要がある。 ○学年や分掌、教科を越えた学校全体的な取り組みを行うにあたり、情報共有や意思統一を円滑に図るため、ICT機器の活用やシステムの改善など一層の工夫が必要である。 ○休暇取得の促進や定時退校日の遵守など、職員のワークライフバランスの改善に向けた取り組みが必要である。 				

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の生徒がより高い目標を設定し、自ら学ぶ姿勢を身につけ、自己の可能性を伸ばすことができる学習活動を推進する。またその実践のため、教員一人ひとりが指導力の向上を図る。 ○学校生活を通して主体的に行動することができ、社会性、協調性、責任感、創造力、企画力、コミュニケーション力、忍耐力などを身につけ、心身共にたくましく、他者への共感ができる生徒を育成する。 ○命を大切にし、自己肯定感を高め、一人ひとりが大切にされる人権感覚あふれる学校づくりを推進する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○指導内容や評価方法について教科会での活発な議論を推進するとともに、学校全体として学力向上や授業力向上に向けた新たな企画や改善策を積極的に提案し合い実行できる体制を構築する。 ○目的意識の共有化を図り、組織力を向上させるとともに、地域の多様な関係者と連携することなどにより、有為な社会人を育成するために最適な教育環境を創造する。 ○総勤務時間の縮減など、教職員が健康で意欲的に働くことができる職場環境づくりに取り組む。

<p>構築</p>	<p>(3) 学校説明会・クラブ見学会を開催することにより、桑名西高校の魅力が中学生や保護者に発信していく。</p> <p>(4) 教育公務員として法令を遵守し、高い倫理観と崇高な使命感を持って職務に専念し、不祥事根絶に向けて討議していく。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP やきずなメール、学年通信等による積極的情報発信。マスメディアへの情報提供。 ・防災訓練や防災研修会を年2回実施。 ・地域から参加要請があった各種行事への積極的参加の推進。 ・中学生に親しみやすく、わかり易い学校パンフレットの制作。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新回数5回以上/月平均 ・情報発信が適切であったと回答した保護者の割合 9割 ・年1回以上地域の活動に参加したと回答した生徒の割合 8割 ・学校説明会および学校見学会に参加して本校の様子がよくわかったと回答した中学生の割合 8割 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会・クラブ見学会は、感染対策を講じて、多数の中学生・保護者にご参加いただいた。 ・全教職員で活発なグループ討議の実施により、不祥事根絶に向けた取組を行った。 今年度は総務部の協力で、HPの充実やコロナ禍の影響により、きずなメールを活用し、学校の取組などを保護者等に発信することができた。 ・防災訓練や地域からの各種行事はコロナ禍により中止。 ・学校案内パンフレットは読者対象を中学3年生に絞り、より親しみやすいように編集を工夫した。 ・4.7回以上/月平均 ・アンケート実施できず。 ・地域活動 100% (100%) ・学校見学会 99% (97%) ・クラブ見学会 99% (97%) 	
<p>キャリア教育の充実</p>	<p>(1) 大学入学共通テストや一般入試を視野に入れて受験勉強に取り組むとともに、国公立大学における推薦入試の積極的な活用を図る。</p> <p>(2) 多種多様な生徒の進路希望が実現できる、きめ細かい指導・支援を図る。</p> <p>(3) 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学進学希望者の大学入学共通テスト・一般入試受験を促進。 ・就職希望者への面談の充実を図る。 ・進路講話、進路ガイダンス（入試に向けて・学部学科選択・文理選択）、ようこそ先輩、卒業生講話の実施。 ・校外模試（全統模試・進研模試・看護模試・公務員模試）、自己診断テスト（スタディーサポート・R-CAP）の活用。 ・1日看護体験、保育体験、作業療法士体験の奨励。 ・探究学習プロジェクトを組織し学年別に探究活動を実施。 ・授業及び総合的な探究の時間を活用した「18歳選挙権」関連講座の実施。 ・ホームルーム活動、生徒会活動、部活動、教育委員会や地域と連携した活動の活性化。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の進路希望実現に向けて最後まで粘り強く努力したと回答した生徒の割合 8割 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学の推薦・A0入試に9名出願し、3名の合格者 ・2回の個人面談と個々に応じて複数回実施 来年度は、個人面談を学期に1~2回実施していきたい。 ・大学入試センター試験出願者数 197名 ・進路通信を1年2回、2年5回、3年5回発行 ・コロナ禍により進路行事が中止となった。 ・2年 志願理由等発表会 1年 批判的志向 ・3年：桑名市長期日前投票 2年：主権者教育関連講座 ・進路実現に向けて粘り強く努力した生徒 88.3% (昨年度 86.0%) 	<p>◎</p>

<p>生徒指導の充実</p>	<p>(1) 挨拶・清掃・身だしなみ「当たり前を素晴らしく」を目標に掲げ、生徒自らが進んで学校生活を過ごすことを目的としている。生徒や教職員が積極的に挨拶を交わす関係を築くことで、他者を思いやり、自らを大切にできる態度を育て、人間関係を育む。</p> <p>(2) 美化意識の向上、校内美化・清掃活動に積極的に取り組む。また交通安全に対する意識の向上やマナーアップに努め、地域の一人としての役割を担う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ防止、薬物乱用防止、交通安全（特に自転車事故の防止）、ネットモラル等の講演会の実施。 年間を通じた登下校指導の実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで挨拶をすることができるかと回答した生徒の割合 8割 校内美化・清掃活動に努めることが出来たと回答した生徒の割合 7割 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導、身だしなみUP週間などで積極的に働きかけた。 定期的に通学路の交通指導を行った。 現職教育にて清掃の行い方を周知した。 <p>講演会は、交通安全とネットモラルについて1学年のみ行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登下校指導 5回(5回) 回答 91.8% (挨拶) (昨年度 88.0%) 回答 91.3% (清掃) (昨年度データなし) 	<p>※</p> <p>※</p> <p>◎</p>
<p>心と体の健康の充実</p>	<p>(1) 高校生に必要な健康に関する知識の獲得と意識の高揚を図り、自己管理能力をつける。</p> <p>(2) 早期の問題発見・解決に向けて、担任・学年団・分掌・スクールカウンセラーとの連携を密にし、教育相談および特別支援教育の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「保健だより」を年間12回以上発行 「いのちの教育」について生徒対象講演会を年1回実施。 新型コロナウイルス感染拡大防止対策として手洗い慣行とともに、年間を通じて校内消毒、毎朝検温確認を実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分自身の心と体の状態を理解することができたと回答した生徒の割合 8割 	<ul style="list-style-type: none"> 保健室利用者の個別指導に保護者とも協力しながら、取り組んだ。保健指導や教育相談の状況を情報共有し、課題解決に向けて取り組んだ。 新型コロナウイルス関連の感染防止対策、啓発、掲示等に取り組んだ。 保健だより 17回発行 「いのちの教育」講演会中止 感染防止対策として検温や手洗い励行、特に教室の換気指導については校内放送や学年と連携し、取り組んだ。 現職教育 1回予定 心と体の状態を理解することができた生徒 87.3% (88.0%) 	<p>◎</p>
<p>改善課題</p>			
<p>●コロナ禍による対応</p> <p>保健部の活動 新型コロナウイルス感染症対策として、学年と連携し、毎日の検温指導や教室の換気指導を実施する。また、教職員による校内の消毒作業も実施した。今後もさらに学年との連携を密に取り組んでまいりたい。</p> <p>防災教育 今年度コロナ禍により、年2回の防災訓練を中止とした。来年度は、地域と連携した「防災 in くわにし」の開催を実現したい。</p> <p>学校説明会 クラブ見学会 感染症対策（検温・3密回避・手指の消毒）を十分にしながら、実施することができ、約1,000人以上の中学生・保護者の方にご参加をいただき、説明に十分な理解もいただくことができた。来年度は、本校の魅力をさらにお伝えできるよう、学校全体での取り組みとしていきたい。</p> <p>通学バス バス内の3密を回避するため、臨時バスの運行により、学年別の乗車時間を指定することができた。このことにより、バス内での3密を回避することができた。</p>			

●ホームページの活用

総務部が中心となり、HPの担当者を設け、さまざまな連絡や部活動の活躍など、外部に発信できる仕組みを構築することができた。HPの更新回数も目標の月5回には及ばなかったが、月4.7回更新することができた。

来年度は、生徒会活動や地域との活動などを外部に発信できるようにしていきたい。

●生徒の安全・安心の取組

生徒指導部主導で、全教職員による登下校指導を実施。さらに1年生を対象に、交通安全講習会を実施するなど、生徒の交通事故防止や自転車運転マナー遵守の周知に取り組む。今後も継続して、交通事故防止のため、交通安全講習会や全教職員による登下校指導、さらには自転車運転実技講習会などの開催を検討していきたい。

学校生活アンケートを学期に1回実施し、このアンケート結果をもとに、生徒との個人面談等を実施することで、いじめの早期発見につとめている。またいじめについては、生徒の小さな変化に気づき、保護者やスクールカウンセラー等との連携を図り、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	<p>(1) 教科会を定例化・活性化し、授業内容・評価方法の検討と授業力向上に取り組む。</p> <p>(2) 校内研修会の充実および外部研修等の成果を全職員で共有する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互授業見学を1・2学期に各1週間実施。 各部主催の教職員研修を各年1回実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業改善が進み、生徒にとって満足度が高い授業が実施できたと回答した教職員の割合 8割 	<ul style="list-style-type: none"> 教科会の開催により、教科内の情報共有を図り、授業力向上に取り組んだ。 1学期は新型コロナウイルス感染症に伴う休校により中止となった。2学期には1週間実施した。 満足度が高い授業の実施 <p>69.8%(昨年度73.5%)</p>	<p>※</p> <p>※</p>
組織力の向上	<p>(1) 日頃から教職員間の対話を重視するとともに、打合せや会議とおして、生徒に関する情報や校務運営の情報共有を密にする。</p> <p>(2) 学年・分掌の協力体制を強化し、進路指導や生徒指導、教育相談の情報共有を活発に行う。</p> <p>(3) 「運営委員会」「桑西向上委員会」において、組織運営及び入試制度や進路指導の在り方等について継続して検証する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織力の向上に向けた積極的な情報共有と改善に向けた様々な提案 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務運営に積極的に関わることができたと回答した教職員の割合 7割 	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の打合せや各会議において、生徒の情報共有や学年間・分掌間の情報共有もできている。 今年度から「向上委員会」を立ち上げ、本校の特色化・魅力化などの議論をおこなった。 会議の精選や適材適所の人材配置など、教職員の意欲向上に向けた取組をおこなう。 校務運営に積極的に関わることができた教職員 76.7% <p>(昨年度76.5%)</p>	<p>◎</p> <p>※</p> <p>◎</p>

<p>働きやすい職場づくり</p>	<p>(1) 会議の精選や時間の短縮などにより労働時間の適正化に努め、定時退校や有給休暇の計画的取得、ライフステージに応じて必要となる休暇取得などを推進する。</p> <p>(2) 互いに職場の仲間を思いやる心がけを大切にするとともに、教職員一人ひとりが相手の意見を尊重しながら自由闊達に意見を言い合える職場環境づくりに努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定時退校日（月 2 回）を実施し、設定した日の定時に退校できる職員の割合 90%を目指す。（昨年実績 86.7%） ・ 部活動休養日を原則週 1 日設定し、計画通り実施できた部活動の割合 100%を目指す。（昨年実績 93.5%） ・ 放課後に開催される会議が 60 分以内に終了する割合 80%を目指す。（昨年実績 68.1%） <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身のワークライフバランスが向上したと回答した教職員の割合 70%を目指す。（昨年実績 58.8%） ・ 休暇を一人平均年 15 日以上取得。（昨年実績 12.5 日） ・ 時間外労働月 80 時間を超える職員の年間延べ人数を 1 割削減（昨年実績 30 人） ・ 時間外労働を一人平均月 1 時間削減（昨年実績一人平均月 25.3 時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も継続的に会議の精選を検討してまいりたい。 ・ 定時退校日の月 2 回の実施は、教職員にかなり浸透してきたように思う。教職員同士のコミュニケーションを重視し、働きやすい環境づくりを目指していく。 ・ 定時退校した職員の割合 80.4%（1 月現在） ・ 部活動休養日 96.6%（6 月－1 月現在） ・ 60 分以内の会議 72.4%（1 月現在） ワークライフバランス向上 44.2%（昨年度 58.8%） ・ 休暇 11.3 日（年次休暇のみ）（17.7 日：特別休暇含む） ・ 時間外労働 80 時間超え 24 人（1 月現在） 一人平均 17.8 時間（1 月現在） 	<p>◎</p> <p>※</p> <p>◎</p> <p>◎</p>
-------------------	--	--	-------------------------------------

改善課題

- 授業改善が進み、生徒にとって満足度が高い授業が実施できたと回答した教職員の割合が、昨年度と比べて、1 割程度減少している。これはコロナ禍により、実施されたオンライン授業の影響もあって考えられる。ICT 教育についての校内外の研修や、教科内での情報共有を図ることが必要である。
- 桑西向上委員会では、各学年や各分掌からメンバーを選出し、桑西の特色化・魅力化について議論をおこなった。
 1. 修学クラスの在り方
 2. 新カリキュラムについて
 3. 機械警備の方法について
 4. 本校のアピールポイントについて
 5. 入試選抜方法について
 6. コース制や類型について
 7. 考査発表中・考査中の部活動について など来年度も、継続して議論をおこなっていく。
- ワークライフバランスが向上したと回答した教職員の割合が、目標や昨年度実績も大きく下回った。教職員の総勤務時間縮減に向けた取組を、下記のように進めていく必要がある。
 1. 会議の精選・構成メンバーの見直し。
 2. 会議時間（60 分以内）の遵守。
 3. 過重労働時間月 45 時間以内・年 360 時間以内の徹底。
 4. 定時退校日（月 2 回）での定時退校の徹底。
 5. 部活動休養日の週 2 回の検討。
 6. 部活動時間の制限の検討。（考査中の部活動時間の制限等）等により、教職員の時間外労働が、月 45 時間・年 360 時間の遵守に取り組んでまいりたい。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の人権教育では、新型コロナウイルス感染症に対する差別を考えてみてはどうか。生徒への不適切発言があるなど、教員側も問題意識をもって、取り組んでいただきたい。 ・学校行事等の運営に、生徒の声を聴く機会を設けてはどうか。 ・今年度、ICT教育が実施されたが、コロナ禍であるから実施したというのではなく、教育内容の質を向上させるチャンスとして捉え、学校教育のなかに取り入れていただきたい。 ・本校は、自転車での通学者が多いこともあり、安全運転講習を強化していただきたい。特に、スマホを見ながらの危険運転や道幅いっぱい広がる並進運転は大変危険である。桑名西高校の生徒は、しっかりと挨拶してくれる。 ・今年度、開催できなかった「防災 in くわにし」を、来年度は、久米地区や下野地区と連携して取り組んでいただきたい。 ・時間外勤務労働 80 時間超えの教職員が多い。業務の偏りをなくすことを検討してはどうか。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も生徒が安全に登校できるよう、交通マナー遵守を徹底させるため、教職員による登下校指導や交通安全講習の開催に取り組んでいく。また自転車点検（ブレーキ・ライト等）も引き続き実施していく。 ・学校案内については、中学生が興味を示す内容やデザインに刷新することができた。 ・ホームページも担当者を設けたことにより、本校の取組や部活動の様子などを外部に発信することができた。来年度は生徒会活動や地域との取組などを発信していく。 ・防災教育については、今年度コロナ禍により実施することができなかった。来年度は四日市大学のご指導のもと、久米地区や下野地区とも連携し、「防災 in くわにし」を開催することで、生徒や教職員の防災意識を高め、自助・共助の精神を培い、自他ともに「いのちを大切にする教育」を推進していく。 ・図書館の利用については、生徒たちが多くの本とふれ合えるように、授業での活用を促進するなど、図書館を利用しやすい環境づくりに取り組んでいく。 ・キャリア教育を推進することで、学ぶ意欲を高め進路を決定する能力や態度、人間関係を築く力、将来の社会的・職業的自立に必要な資質・能力を身につけていけるように取り組んでいく。 ・いじめのない学校づくりとして、生徒たちが生命を大切にし、いじめを許さず、相手を思いやる心や個性を認め尊重する態度を育み、いじめ防止に向けた主体的かつ自主的な行動ができる力を身につけられるよう、取り組んでいく。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・労働時間縮減に向けた取組として、来年度も引き続き、会議の精選や会議時間を 60 分以内とすることにに取り組んでいく。 ・部活動において、週 1 日の休養日の設定 100%を目指す。また、考査中などの活動制限等の検討をおこない、生徒の学習時間の確保に繋げることで、勉学と部活動の両立を目指していく。（部活動加盟率 90%以上を目指す。） ・部活動顧問の負担を軽減するため、外部人材や副顧問の活用を推進していく。特に時間外勤務労働月 80 時間超えの教員をなくすことを目標に取り組んでいく。 ・来年度も月 2 回の定時退校日の設定や、年 2 日以上学校閉校日の設定を検討し、教職員の過重労働対策に取り組んでいく。